

2025 年 4 月 10 日(木)

ラムセス大王展

3 月 8 日から豊洲の特設会場で開催されている『ラムセス大王展』に春期休業中を利用して出かけて来ました。

ラムセス大王(ラムセスⅡ世)と言えば、エジプト新王国第 19 王朝のファラオ(在位:紀元前 1279 年頃-紀元前 1213 年頃)として活躍し、古代エジプト史上、最も偉大な王と称されています。北はパレスチナ地域を巡ってヒッタイト帝国と戦い、南はヌビアまで勢力範囲を拡大し、アブ=シンベル神殿など多くの大型建造物をつくり、90 歳で天寿を全うするまで長生きしたことも知られています。子ども数は 100 人とも言われる大家族を養ったそうです。

今回はエジプト政府公認の最大級の展覧会でもあり、180 点にも及ぶ収蔵品の多くが日本初上陸の品々で、1965 年の『ツタンカーメン展』に次ぐ価値ある展覧会と言われるほどです。中でも圧巻は、レバノンスギで作られた緩やかなカーブを描く気品のある顔をもつ大王の棺、スフウインクスと同じような姿で作られた大王像などが飾られています。エジプトに行かずして貴重な資料をコンパクトにゆっくり見られる絶好の機会です。館内での写真撮影は個人利用または非営利目的に限り、自由に撮影できるのも嬉しいことです。ただ、撮影する前にじっくり自分の目で鑑賞し、古代エジプトの世界に浸ってほしいものです。

また、有料ですがバーチャル・リアリティ(VR)やヒエログリフ作成などもできます。ただ、入場料(平日)が大人 4,100 円、中高生 3,100 円という高額なのが少し…。9 月 7 日(日)まで開催されています。

石飛 一吉



参考図書

大城 道則(2025)『古代エジプト文明 世界史の源流』講談社学術文庫, 312 頁.